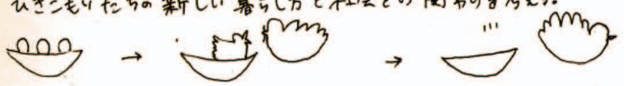
ひきこもりの巣

現在、日本国内でのひきこもり人口は160万人、ひきこもり予備軍も含めると、300万人を越え、実に多くの人が家の中にこもりきりになっている。
また、従来ひきこもり→若者というイメージが強かったが、現在では30代、40代のひきこもりが激増しているという事実がある。

生物はふつう幼少期を親に育てられ、いつかは巣立ちを経て世界へ飛び立つ。
その点、現在のひきこもりは、社会へ出るための力を身につけても巣立つことをせず、親に養われ続けるという、生物としておかしな状況となっている。
ひきこもりたちの新しい暮らし方と社会との関わりを考える。



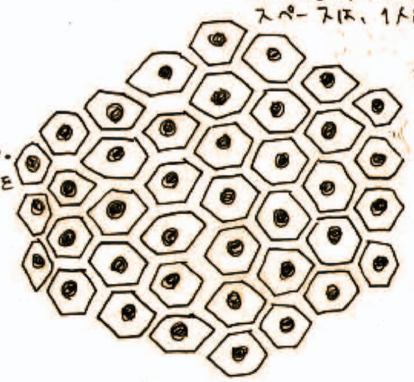
コンセプト：スズメバチの巣

すきまなく並んだ正六角形の部屋1つ1つに卵を産みつける。
子は、その狭い部屋で生まれ、エサを食べ、成長し、さなぎになる。
そして成虫となり外へ出ると、働きバチとして、次の子どもたちにエサを運ぶために外を飛びまわる。
このように、スズメバチは生物の中でも優れた社会構造を持つ。

ダイアグラム

1人1坪の部屋 × 40T個

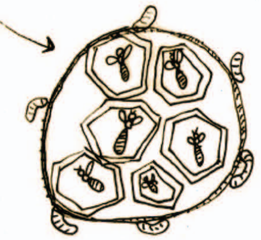
ひきこもり大人に与えられる生活のスペースは、1人あたり1坪。



日々の生活を部屋の中だけで完結でき、ふろ、トイレさえ行かずに部屋内で済ませる人にとっては充分なスペース。

1つの巣に、40人のひきこもりたちを住まわせる。
40人の交わらない共同生活。

大人と子どもの反転。

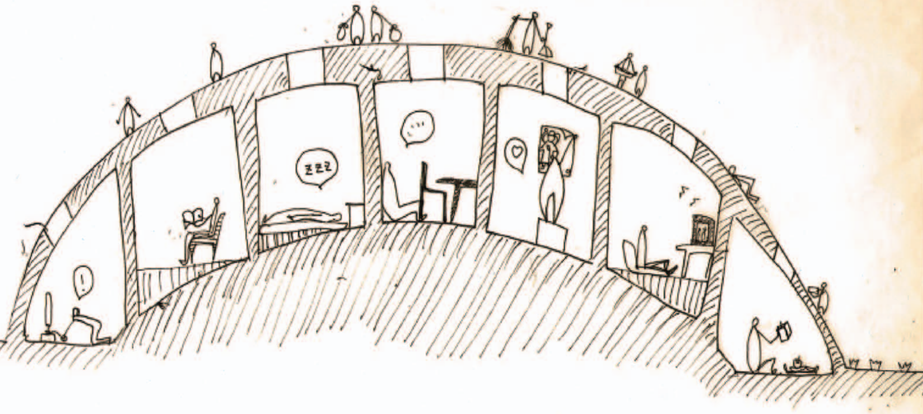


ハチの場合

敷地

小学校の校庭内。

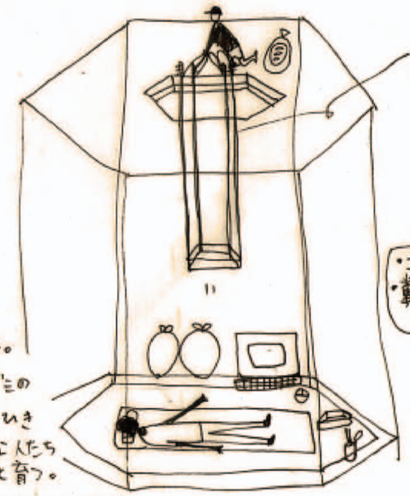
街の中の子どもの場所。
公園、広場、児童館、様々なものがあるが、その中で小学校を敷地と設定する。
子どもたちが学び、成長に最も影響を与え、人格の核をつくる場所。ここにひきこもりの巣をつくることで、子どもたちの教育にも役立てるものにすることが目的。



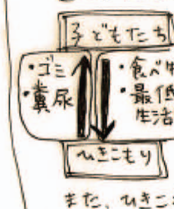
断面図

飼育係

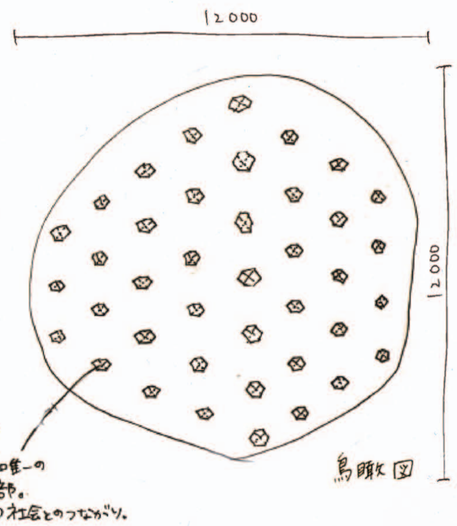
子どもたちがひきこもりの世話をする。
給食のあまりものをやったり、汚物やゴミのそうじ、メンタルケアなど。子どもたちは、ひきこもりの世話をすることで社会にこんな人たちがいることを知り、自分たちはたくましく生きようと育つ。
小学校での新しい教師(反面教師)となるひきこもり。



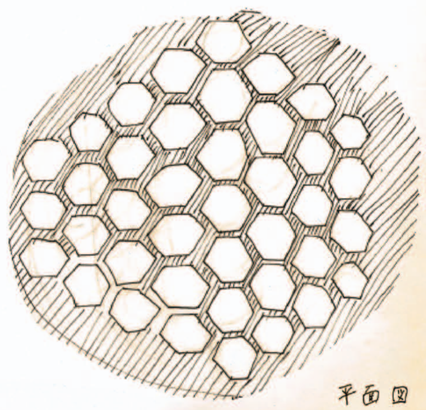
ライフライン。
部屋の天井には穴が開いていて、そこからひもを通した箱を垂らす。
40l



また、ひきこもりがひきこもることをやめることを決めれば、このライフラインから外へ出ることができる。



鳥瞰図



平面図